

令和 4 年 9 月 7 日現在

機関番号：44443
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2018～2021
 課題番号：18K10491
 研究課題名(和文) 不妊治療の選択・終結過程における意思決定支援カウンセリングツールの開発・検討

研究課題名(英文) Development and examination of decision-making support counseling tools for use in selecting and terminating infertility treatments

研究代表者
 矢野 恵子(YANO, Keiko)

藍野大学短期大学部・その他部局等・非常勤実験実習助手

研究者番号：10174559

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は不妊症治療過程における意思決定支援のためのカウンセリングツールの開発・検討を目的とした介入研究である。

各々独立して行っていた方法を一連のものとして組み合わせ、ツールⅠ：コラージュ作成(現在の自分の状況を客観視する)、ツールⅡ：ライフプラン作成(今後に向けて選択肢を増やす)、ツールⅢ：選択肢整理シート作成の3段階からなり、終了後に効果を検討するための個別面接を行った。計11名に介入及び面接を行い、各ツールごとの分析も行ったが、～を実施できた5名について終了後面接内容を分析した結果、これら3つのツールを組み合わせで行う効果、およびこの順番で行う効果が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

不妊治療過程における意思決定支援の必要性及び重要性については、様々な研究において指摘されているが、具体的な介入方法に言及したものは少なかった。本研究で開発し介入に使用した一連のツールは、不妊治療過程の様々な段階での意思決定場面において、自分の気持ちを整理し、意思決定に至るために活用できるものであることが示唆された。具体的な介入方法を明示しているため、現在紹介されている他のツールや、臨床で活用されている一般的なカウンセリングツールの一つとして、またはそれらと組み合わせることで活用することにより、効果が期待されるものである。

研究成果の概要(英文)： This was an intervention study aimed at developing and examining the efficacy of counseling tools for decision-making support in the infertility treatment process.

The method developed combines methods that were previously performed independently into a single series, including Tool I: Collage creation (an objective view of a patient's own current situation), Tool II: Life plan creation (increasing the number of options), and Tool III: Creation of an option organization sheet, and upon completion, individual interviews were conducted to examine the results. Interventions and interviews were conducted with a total of 11 people, and analysis was also performed for each tool. Analyses of the contents of post-completion interviews conducted with five people (Tool ~), suggested the efficacy of combining these three tools and performing them in this order.

研究分野：母性看護学、助産学

キーワード：不妊治療 意思決定支援 不妊カウンセリング

1. 研究開始当初の背景

不妊症治療の過程における選択場面は図1に示すように多々存在するが、その選択は選択者にとってストレスフルなものであり¹⁾、医療職による介入の必要性に関する研究が、看護職や医師によって今までにも種々になされている。しかし、具体的な内容にまで言及したものは殆ど見られなかった。

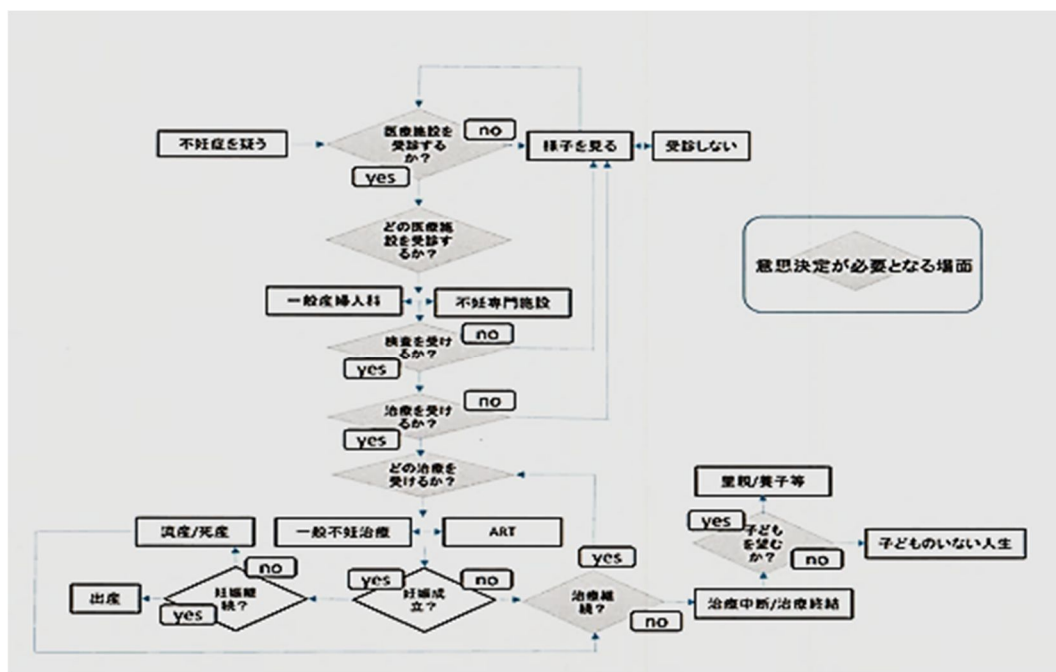


図1 不妊症治療の過程における自己決定チャート図

2. 研究の目的

本研究の目的は、不妊症治療における様々な自己決定場面で活用できる意志決定支援カウンセリングツールを開発し、その有効性を検討することである。

3. 研究の方法

本研究で開発・検討する自己決定支援カウンセリングツールは以下の3つのツール、およびその組み合わせから、対象者の希望を考慮して構成した。ツール実施後に半構面面接を実施し、了解が得られた場合は録音して逐語録を作成し、分析対象とした。

本研究の対象者は、不妊治療過程にある事例で、研究協力機関の協力を得て事前に同意が得られた人に、改めて方法・倫理的配慮について資料を用いて説明し、文書にて同意を得た上で実施した。

(1) ツール：コラージュ-現在の自分の状況を客観視する-

コラージュとは写真や絵や文字などを新聞や雑誌などから切り抜き、これを画用紙等に貼って一つの作品とするもので、20世紀初頭に生まれた美術の一領域であるが、自分を見つめるための自己治療法である「コラージュ療法」として、児童相談所や教育相談所、精神科、心療内科、小児科などで活用されている²⁾。この方法を、不妊治療過程における意思決定場面で本研究の介入方法の「導入」として活用した。「現在の自分」をイメージしつつ簡単なコラージュを作成してもらい、「今の自分がどういう状態にあるのか」を、出来上がったコラージュ作品を改めて見直すことで、客観的に自己分析してもらった。(写真1)

(2) ツール：ライフプラン-子供のいない人生を想像してライフプランを作成する-

科学および医学の進歩により、不妊治療として様々な方法が開発されているが、100%の成功を保証するものは無い。様々な治療を試みても、最終的に子どもを得られないことも少なくない状況を踏まえ、「子供が生まれなかった場合の私のこれからの人生」として、仮に「夫婦がそれぞれ平均寿命まで生きる」という設定でライフプランを作成してもらった。これは、子供のいない人生だからこそ出来ることもあるという気づきを促し、今後の選択肢を広げることを目的としたものである。これは治療継続を否定するものではなく、選択肢の中に「治療の中断」あるいは「治療の終結」を加えることができるという認識を期待するものである。ライフプラン作成用として、現在の年齢から平均寿命までのライフイベントを記入できる表を使用したが、表現方法は原則本人の自由とした。(表1)

(3) ツール：選択肢整理シート-自己決定に影響する要素別に可能な選択肢を整理する-
 不妊治療における意思決定場面で、対象者が思い浮かべかつ検討する要素は多数存在することが多い。そのために心理的に葛藤し、選択そのものが大きな精神的ストレスとなりうる。既存の意思決定ガイド等を参考に独自に作成した下記の表（これは提示用の記入例）を使い、その時点で可能な選択肢を縦軸に列挙し、選択に影響すると本人が考えている要素を横軸に書き出してもらって、それらの要素ごとに自分が選択可能だと考える選択肢を選んでもらった（複数可）。その上でそれらの要素に優先順位を付けてもらい、出来上がった表を再度見直して、縦横それぞれの組み合わせごとに「○：選択可能」「△：どちらともいえない」「×：選択不可能」「？：情報不足」などを記入してもらい、最終的な選択のための資料としてもらった。また、作業の経過中に新たな選択肢が思い浮かんだ場合は「その他」に書き加えて、再度検討してもらった。（表2）



写真1 ツール：コラージュの例

【子供のいない人生を考えてみる】 記入日： 年 月 日

年齢 夫の年齢 現時点	20歳	25歳	30歳	35歳	40歳	45歳	50歳	55歳	60歳	65歳	70歳	75歳	80歳	85歳	90歳
自分の予定															
家族としての予定															
夫の予定															
その他															

表1 ツール：ライフプラン作成用の表

【記入例】 ○選択可能 ×選択は難しい △どちらともいえない ?未確認

要素／優先順位 選択肢	自分の年齢	経済面	仕事	自分の気持ち	パートナーの気持ち	（その他）
	②	⑤	④	①	③	
専門施設受診	○	○	△	○	○	
一般不妊検査	○	○	○	○	○	
詳細な検査	○	×	△	△	?	
一般不妊治療	○	○	○	○	○	
生殖補助医療	○	○	△	×	△	
里親／養子縁組	△	○	△	×	○	
その他（ ）						

表2 ツール：選択肢整理シート（説明用サンプル）

(4) 終了後面接

ツール終了後に、個別に時間と場所を確保して、年齢・職業・結婚歴、今までの不妊治療経過、現在の状態を尋ねたのち、実施してみての感想や気持ちの変化、今後の意思決定への効果・影響などを半構成面接法にて聞き取り、傾聴しつつ内容を書き取った。了解が得られた場合は録音して逐語録を作成し、これらのデータを質的分析対象とした。所要時間は

30分から1時間程度であった。

なお本研究は、開始時に所属した研究機関の倫理審査委員会の承認を得て実施した。(金沢医科大学、No.1349)

4. 研究成果

(1) データ収集期間は2019年3月～2020年6月である。

(2) 研究対象者：合計11名に面接を実施したが、データ不足等の理由で2名を除外し、9名分を分析対象とした。実施したツールは、対象者の希望も考慮した結果、表3に示す通り、ツール実施が6名、ツール実施が8名、ツール実施が8名であるが、その内ツール～の順で実施(表中☆の事例)したのは5名である。

対象者の平均年齢は40.8歳(±5.4歳、29～48歳)、夫の平均年齢43.6歳(±3.5歳、37～49歳)、結婚後1.5～15年、治療歴1～14年で、調査時受診中6名、受診中断中2名、治療終了後1名であった。日本の不妊症での受診者数は40歳前後がピークと推測されており¹⁾、ある程度我が国の現状を反映した対象者であったと思われる。

表3 研究対象者一覧

事例	結婚後	治療歴	現在	ツール	ツール	ツール	備考
1	5	1	受診中	○	○	○	☆
2	4	3.5	終了後		○	○	
3	7	14	中断中	○	○	○	☆ 再婚
4	不明	不明	不明	○		○	除外
5	3	1	受診中	○	○	○	
6	3	2	受診中			○	
7	1.5	1	受診中			希望有	除外
8	15	14	受診中		○		
9	6	3	中断中	○	○	○	☆
10	6	5	受診中	○	○	○	☆
11	1.5	1	受診中	○	○	○	☆

(3) ツール : コラージュ

コラージュに対しての終了後面接時には、「写真などを使うことでイメージしやすい」「作品を作ることにより自分の気持ちを知ることができた」「第三者的な視点で見ることができる」「パーツを置く位置を決めることができたので頭の中の整理がしやすかった」「子どものこととは関係なく、今後やりたいことがあることに気付いた」「視野が狭くなっていたことや我慢していたこと、自分のしたいことに気付けた」「頭の中にあったものがアウトプットされたので、隙間ができ考える余裕につながった」などの発言があり、考えていることを視覚的に表現することで、自分自身について客観的に見つめる機会となりうることが示唆された。

(4) ツール : ライフプラン

ライフプランについては、終了後面接時に「夫と二人だけの人生について考える機会となった」「夫の死亡後のことを考える機会となった」「今後のキーパーソンの位置付けができた」「書くことによって考えを整理できた」などの発言があり、長期的な今後の人生も含めて今を見つめるだけでなく、「卵子の老化について前もって知っていたら違ったかも」など過去～現在～未来を見つめ直す機会となった人もあった。

当初の子どものない人生について考えてみることで選択肢の幅が広がるという目的に関しての効果は直接的には認められなかったが、「人生について見つめなおす機会となった」「これからの人生を考えていかなければいけない場面で、目に見えるものがあると考えやすくなるかもしれない」など、間接的にそれに繋がる可能性は見い出せた。但し、「気持ちが整理できていない状況で文字にするのは難しい」との意見もあり、対象の状況を把握した上で、活用の是非を検討する必要がある。

(5) ツール : 選択肢整理シート

選択肢整理シートの終了後面接時には、「やってみてよかった」「自分の考えを知ることができた」「人生の選択肢を再確認できた」「自分と向き合うことができた」「自分自身について新たな気付きが合った」「気持ちの整理の仕方が分かった」など自分理解につながったものや、「夫婦で話し合えるきっかけとなった」「夫婦で活用できるとよい」など、夫婦での選択にも活用できることが示唆された。また「今後も役に立つ」「このような方法についてさらに知りたい」など、ツールとして今後のさらなる活用の可能性について述べられたものもあった。

なお、この前段階として「選択肢整理シートで整理したい事柄を整理するための用紙」があ

るとよかったという意見もあり、今後の課題として検討したい。また、この用紙の経験からさらに発展させて「悩みの種類によって活用できるツールがあるとよい」などの希望もあった。

一方、実施過程で過去のつらい出来事がよみがえる可能性も示唆されたので、今後はこの点にも配慮しつつ実施する必要がある。

(6) ツール ~ を一連の方法として活用することについて

これが当初の最終目的であったが、ツール ~ の順で実施できた5名の分析からは、「自分にはこの順番が良かった」「最初にコラージュがあったから次のライフプランが書けた様な気がする」「(コラージュは)気軽に始められる方法だと思った」「抽象的なことから具体的なことに進む順番になっておりよかったと思う」など、ツールの順番性については概ね肯定的であった。またコラージュについては、導入部として入りやすいという意見が多かった。「3つの方法を通して全体的に見ながら徐々に整理されていった」といった、全体を一つの方法として有効だととらえた人もあったが、「方法が1つでも3つでも整理するのには役立つ」という見解も示されたため、対象の希望に沿って種類や数など自由にツールを選択できる方法も、今後の実践においては検討したい。

(7) まとめ

不妊症治療過程の意思決定場面で活用できるカウンセリングツールの一つとして、本ツールの有効性が示唆された。但し、ツールごと、あるいは ~ の一連のツールとして活用するにあたっての課題も明らかになったため、今後の検討に繋げたい。

<引用・参考文献>

- 1) 株式会社野村総合研究所：令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業 不妊治療の実態に関する調査研究最終報告書．2021．<https://www.mhlw.go.jp/content/000766912.pdf>
- 2) 杉浦京子：コラージュ療法．川島書店、1994．

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 矢野恵子、小松原千暎、近藤裕子、塩沢直美、高橋俊一、高田智子、藤島由美子	4. 巻 16
2. 論文標題 不妊治療の選択・終結過程における意思決定支援家運せりんづーの開発	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 共創福祉	6. 最初と最後の頁 49-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 矢野恵子、小松原千暎、近藤裕子、塩沢直美、高橋俊一、高田智子、藤島由美子	4. 巻 21
2. 論文標題 不妊治療過程における意思決定支援ツールとしての「選択肢整理シート」活用の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本不妊カウンセリング学会誌	6. 最初と最後の頁 49-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 矢野恵子、川端久美子、小松原千暎、近藤裕子、塩沢直美、高田智子、高橋俊一、藤島由美子
2. 発表標題 不妊治療過程における意思決定支援ツールの検討
3. 学会等名 第19回日本不妊カウンセリング学会（誌上発表）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 矢野恵子、川端久美子、藤島由美子
2. 発表標題 不妊症サポートグループにおける意思決定補助ツールとしての「ライフプラン」の活用
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 矢野恵子, 川端久美子, 小松原千暁, 近藤裕子, 塩沢直美, 高田智子, 高橋俊一, 藤島由美子
2. 発表標題 不妊治療過程における意思決定支援ツールの検討
3. 学会等名 第19回日本不妊学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	河端 久美子 (KAWABATA Kumiko) (90815086)	金沢医科大学・看護学部・助教 (33303)	2020年11月に削除

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	小松原 千暁 (KOMATSUBARA Chiaki)		
研究協力者	近藤 裕子 (KONDOU Yuko)		
研究協力者	塩沢 直美 (SHIOZAWA Naomi)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	高田 智子 (TAKADA Satoko)		
研究協力者	高橋 俊一 (TAKAHASHI Shunichi)		
研究協力者	藤島 由美子 (FUJISHIMA Yumiko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関